

新宮山彦ぐるーぷ第2179回

行仙宿、三井寺奥駈行の接待と熊野修験奥駈行の荷揚協力

◇実施日 5月20日(金)

晴

◇参加者 沖崎吉信、畑林秀味・清子、大江加予子・徳子、生熊千

満子、西克、中前偉、湯川一郎、梶野照雄、中川治平、清水八重子 12名

天台寺門宗総本山園城寺(三井寺)は1156年前の貞観8年、智証大師円珍和尚の業績が広く認められ、国家からその教法を正式に認める伝法公驗(証明書)が発給された日から始まったようだ。その教えは「自己の悟りを求め、社会のために全力を尽くすこと」を目指している。



荷物を満載で



荷揚げ品の色々



行仙宿に到着

行仙宿小屋に故塩川先生直筆の扁額「山林抖擻」が掲げられているが、これも修験者を鼓舞するものだろう。大峯での奥駈行は室町時代からか400年間途絶えていたが、昭和50年5月に順峰奥駈行を復興したその第一回目には平治宿で仲間4名(玉岡、橋本、戸石小林)が接待に出向いている。以後、三井寺の奥駈行は3年に一度位の頻度で太古の辻以南、所謂南奥駈に足を踏み入れている。従って今回も3年ぶりの南奥駈行となる。

今回の奥駈行に先立ち、3月16日に三井寺の福家執行長と秋田修験部長のお二人がわざわざ拙宅迄お運びくださって、計画の説明と協力の依頼があった。



耐熱テープで隙間を塞ぐ

一行の到着を待つ

当日登山口に全員が集合、中川治平さんが久々に参加。また新宮駅近くの居酒屋「清水」の女将、清水八重子さんが是非参加したいと申し出があって、初大峰、初参加となった。

明日行仙宿小屋に宿泊予定の熊野修験一行のため、段ボール箱を荷揚げ、その他に水道水70リッターも準備した。

モノレールの荷台満載の荷物で、一度で運び上げることが出来るか心配したが、皆で分担し一回で運ぶことが出来た。

三井寺の行動予定では午前1時に玉置神社を出発、となつているので11時頃には着くだろう。いやいや12時を過ぎるだろう。と各自予想を立てる。早く到着することを前提に準備を整える。

お堂の清掃、櫛の取替、幟を立てる、長椅子とテーブルの準備、食器類の煮沸など各自手分けして行う。

女性陣はお湯を沸かして味噌汁や紅茶を用意する。手慣れたもので30分ほどで味噌汁が出来上がった。

椅子とテーブルの設置を終えた梶野君は屋根に登って煙突の防水処理を行う。12時前になったので先に昼食を済ませる。



一行到着



勤行



味噌汁を振舞う

全ての準備が整い三井寺一行の到着を待つだけになったが12時

半を過ぎても到着する様子がない。中前君が笠捨山に向かって法螺貝を吹くが応答はない。畑林君や清水さん等が笠捨山方面に迎えに行った。午後1時頃、畑林君から電話があり「笠捨越分岐上の大桧迄来ている、あと10分位で行仙宿に着く」と言うことだった。

コンロに火を点けて味噌汁を温める。暫くして一行の姿が見えた。到着した皆さんはお若い人ばかりで福家執行長以外は面識がない。参加予定だった広島の椎木さんは直前に腰を痛めて欠席、19名でスタートしたが、途中で2名がリタイヤ、浅村君が付き添って下山したので、行仙宿に到着したのは16名だった。

到着した16名の内、足の故障で1名が下山するという。到着した一行は行者堂で勤行、我々も手を合わせて心経を唱えた。早速用意したお茶や味噌汁で接待。遅くなったので昼食は途中で済ませたとのことだった。まだ持経宿まで4時間の山道が待っているので、ゆっくりはできず30分弱で出発された。



一行が出発



足を痛めた一人を引き継ぐ



本日の参加者

出発時に我々の接待に対し、ご丁寧な感謝のお言葉を頂いた。

準備も早い。片付けも早い。午後2時に足を痛めて下山する一名に梶野君と中川さんが一緒に下山、登山口で待ち受けていた浅村君らに引き継ぎ。梶野君は再びモノレールで終点まで戻った。

行仙宿で後片付けを終え、午後2時半過ぎに下山。途中で登ってきた梶野君と合流し、モノレールにザックやゴミなどを積んで登山口に下山した。

(記：沖崎)

## 行動タイム

08:30 補給路登山口→09:40 行仙宿→13:17 三井寺一行到着→13:44 三井寺一行出発→15:05 補給路登山口